

SDGs推進で

富山水素エネルギー促進協議会

水素エネルギーやFCVを学ぶ

児童、生徒に環境教育



富山水素エネルギー促進協議会(以下、水素協議会)は2021年4月から、子供向けのSDGs環境教育を実施している。
この教育は小学生から高校生を対象に、脱炭素社会に向けた水素エネルギーの取り組みや燃料電池自動車

水素協議会は水素ステーション開所1周年記念の企画として、2021年4月から11月までの期間、トヨタ自動車のFCV「MIRAI」の1泊2日の無料レンタル企画を実施した。県内の法人、団体を対象にFCVの普及を図ったもので、16社の利

MIRAIをレンタル

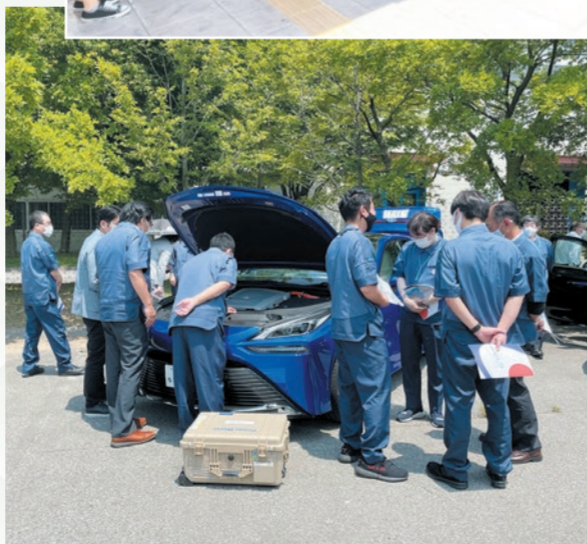
用があった。
フルモデルチェンジした2代目MIRAI(通称新型MIRAI)を4台用意し、「水素の走り」を体感してもらった。車の返却時に水素ステーションの見学や、花のプレゼント(フラワーロス支援)も行った。

水素トラックも

運輸部門の脱炭素化に向けて、水素内燃機関車両の開発事業が進んでいる。
水素協議会は2021年度、情報収集・マスタープラン策定などを進め、22年度以降、県内で水素トラックの実証走行を計画している。

出張型の試乗会

水素協議会は、出張型FCV見学試乗会の開催も昨年4月から始め、さまざまな場所でFCVに触れてもらう機会を創出している。



出張型の見学試乗会＝黒部市内

水素・燃料アンモニアを活用

水素協議会は2021年11月、水素・燃料アンモニアの活用を検討するためのワーキンググループを開設した。水素・燃料アンモニアは脱炭素の切り札として期待されており、「産学官金」の39団体がメンバーとなっている。

ワーキンググループは富山県内における水素・燃料アンモニアの受容性や導入の可能性について地域マ



マグネシウムの切粉

デルを構想し、課題について検討を行う。
この活動の中で先月、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の調査事

業に採択された「伏木富山港の脱炭素化に向けた水素利活用トータルシステム調査」を実施している。
国際拠点港湾に指定されている伏木富山港周辺で水素・燃料アンモニアに

廃マグネシウム粉から水素

商用化へ実証装置開発

ファイナテック(富山市)と北酸(同市)は切削加工で発生するマグネシウムの

ついて現状や将来需要などを調査し、製造から利活用までを地域で一貫するサプライチェーンの構築を目指す。調査期間は2021年度から22年度までとなっている。

基礎研究を経て、三協マテリアル(高岡市)、BBSジャパン(高岡本社)などと連携し、商用化を想定した中規模実証装置を開発した。地域課題の解決に向け、将来的な展開が期待できる。